

仏教四大聖地サールナート。今や世界の文化遺産という仏伝壁画を描いた日本画家

のーすこうせつ 「野生司香雪—その生涯とインドの仏伝壁画—」

発行 野生司香雪画伯顕彰会 (URL: <https://nosu.info/>) 特別価格 3,800 円(税・送料込)

インドの聖地、お釈迦様が初めて説法をしたというサールナートの初転法輪寺(ムーラガンダクティー・ピハラ)に日本人、野生司香雪画伯が描いた仏伝・釈尊一代記の大壁画があります。

堂内の3壁面一杯に日本画の鮮やかな色彩で大きく描かれた全長約44㍍、高さ4.3㍍の壁画は、今ではアジャンターとともにサールナートの仏伝として広く国内外に知られる世界の文化遺産です。

初転法輪寺は、近代にインドでの仏教再興を志したスリランカのダルマパーラ(1864~1933)が米英、日本人らの協力を得て1931(昭和6)年に建立。その堂内に仏伝を描こうとコルカタの総領事館を介して日本に依頼。野生司香雪(1885~1973)が選ばれ、助手と共に渡印し足かけ5年がかりの苦節の末に完成させました。

香雪はまた帰国後、6世紀伝来という三尊仏を本尊とする信州の善光寺から、新築中の納骨堂の壁画揮毫を依頼され、戦中戦後の混乱の時期を経て無事に完成させました。その後、善光寺に白牛をインドから招来するなど、その波乱に満ちた香雪の生涯をご紹介します。またあわせて初転法輪寺の釈尊一代記の壁画もご紹介します。

—目次—

はじめに

大壁画の保存を願って

南澤道人

メッセージ

ベン・P・シーワリー

インド・サールナートの仏伝壁画

中村義博

香雪の生涯

溝渕茂樹

—転載文—

「初転法輪寺の壁画」

野生司香雪

「慈悲の光を放つ仏伝画」

中村 元

サールナート遺跡風景

野生司香雪略年表

仏教四大聖地



野生司香雪 (1885(明治17)~1973(昭和47) 日本画家、仏画家

香川県高松市生まれ。東京美術学校卒、日本美術院院友。大正6~7年仏教美術研究のため渡印。現地で荒井寛方に誘われアジャンター壁画模写に参加。昭和7年からダルマパーラのインド大菩提が建立した初転法輪寺の仏伝、釈尊一代記を制作。厳しいインドの暑さととの闘い、作業の長期化による経費不足を個展を開き収入を得る等して克服、昭和11年春に完成させた。帰国後は、善光寺納骨堂の壁画を描くため長野市に移り、最後は長野市の北にある渋温泉を終の棲家とした。初転法輪寺の壁画の下絵は現在大本山永平寺が保管、一部が随時展示公開されている。

【お申し込み先】〒761-8077 香川県高松市出作町162-36 (株)イクタ Fax087-888-0836 Tel087-889-0330

お名前

ご住所 〒 都道府県

ご連絡先 Tel Fax E-mail ご希望の冊数

お知らせ 野生司香雪画伯顕彰会では、令和元年度から2カ年計画でインドの仏伝壁画保全(剥落止めと記録保存)を計画、募金活動をしています。ご協力お願いします。**お問い合わせ先** (Tel087-889-0330 携帯 090-3186-2069)